

令和3年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験器具の正しい使い方や実験手順を十分に理解させることで、見通しをもって主体的に観察・実験に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・問題を読み取る力が弱いので、科学的用語を覚えることができるように工夫したり、プレテスト等を扱ったりして問題の解き方に慣れる必要がある。
- ・課題に対して自分なりの予想を立てさせ、その予想をもとに実験に取り組ませる必要がある。
- ・考察では、実験結果をもとに課題に対してわかったことや気付いた事を書けるようにする必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	正答率 +5 ポイント	正答率 -2.6 ポイント	/
第5学年	正答率 -1.7 ポイント	正答率 -2.3 ポイント	正答率 +8.6 ポイント (第4学年時)
第6学年	正答率 +1.6 ポイント	正答率 -2.5 ポイント	正答率 +1.7 ポイント (第5学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
4年生は目標値を0.5ポイント上回った。	4年生は目標値を3ポイント上回った。	4年生は目標値を2.5ポイント上回った。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
5年生は目標値を0.4ポイント下回った。 6年生は目標値を1.1ポイント下回った。	5年生は目標値を5.3ポイント下回った。 6年生は目標値を0.2ポイント下回った。	5年生は目標値を2.2ポイント下回った。 6年生は目標値を3.6ポイント下回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>実感を伴った理解になるよう、児童が自らの感覚を働かせ、観察・実験などの具体的な体験活動に取り組む。</p> <p>事象提示を工夫したり日常生活とのつながりに気付かせたりするなど、指導の工夫を行う。科学的用語を覚え、活用できるよう、指導を工夫する。</p>	<p>学習問題・予想・観察・実験・結果・考察・結論といった学習手順を理解させる。観察・実験の結果から分かったことを、提示されたキーワードで自分なりにまとめ表現できるよう、指導する。</p>	<p>植物の栽培や昆虫の飼育という体験活動に取り組ませる。観察したり、調べたりすることにより生命の神秘性や連続性に思いを馳せ、体験を通して自然を愛する心情を育てる。</p>

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>実感を伴った理解になるよう、自然の事象・現象について調べる。また、正しく科学的用語を使えるように指導する。</p> <p>見通しをもって主体的に観察・実験に取り組ませる。そのために、実験器具の正しい使い方や実験手順を十分に理解させる。学習課題を明確にしてから、予想・観察・実験・結果・考察・結論を踏まえ、学習内容を理解させる。</p>	<p>観察・実験などの体験活動を充実し、問題・課題を意識させる。学習問題・予想・観察・実験・結果・考察・結論といった学習手順を理解させる。</p> <p>考察では、実験結果をもとに課題に対してわかったことや気付いた事を書けるように、課題に対して自分なりの予想を立てさせ、その予想をもとに実験に取り組ませる。</p>	<p>身の回りの事象や環境を教材とし、自然の秩序や規則性に気付かせる。自然の事物・現象に関心を深めつつ、そこから問題意識を醸成するように意図的な活動を工夫する。</p>